



<b>課題・反省点</b>	<p>令和6年度パテントコンテストで入賞した研究内容を、令和7年7月大阪万博で発表した。パテントコンテストへの応募を通して、知財学習の深化を図ることができることは認識していたが、令和7年度パテントコンテストに応募出来なかった。次年度出願を目指して、令和7年11月つじのか国際商標事務所杉田基子氏、12月宮城県工業高等学校若松英治氏を招いて講演会を行った。</p> <p>知財学習会の中で、パテントコンテストに関する内容を教えて頂いた。今後もパテントコンテストへの応募を促していきたい。</p>
<b>今後の展望</b>	<p>パテントコンテストの応募を通して、知財学習の基礎・基本を学習できると認識している。生徒の意欲向上を図るため、次年度は発明体験ワークショップへの参加を促していきたい。</p>

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。  
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財学習会



(写真2) 知財学習会



(写真3) 小麦学習会



(写真4) 三菱MIRAI万博での発表



(写真5) 食の学校祭での発表

(特記すべき取組と成果) 三菱みらい育成財団主催高校生MIRAI万博の参加と知財学習について

**高校生MIRAI万博の参加と知財学習について**

令和6年度パテントコンテストで入賞した内容を、大阪万博2000人収容のメインホールで発表をした。令和6年度発明体験ワークショップにて応募書類を事前準備し、かつ調査内容や先行技術との違いなどの記載方法を丁寧に教えて頂いたため、プレゼン内容の整理をスムーズに行うことができた。しかし、大阪万博での発表が決定した4月の下旬から、発表当日の7月31日までの準備日程は苦労の連続であった。毎月2回行われる、ZOOMでの会議では、プレゼン内容の確認、事前資料の提出、発表内容のブラッシュアップ、多言語に対応した取組など、生徒にとってはかなりハードな内容のものが多かった。特に、参加する学校との会議では、本校の発表内容がパテントコンテスト入賞、特許出願など、注目される内容も多く、質問に窮する場面もあり、事前準備に時間を要した。しかし、これらの体験を通して、生徒一人一人が、自分たちの研究内容のどの部分が特許出願に至ったのか等、研究の振り返りを行うなど真剣に知財学習に向き合うきっかけとなった。残念ながら、今年度は大阪万博準備に多くの時間を費したため、パテントコンテストの応募は見送ったが、生徒にとって貴重な時間であった。

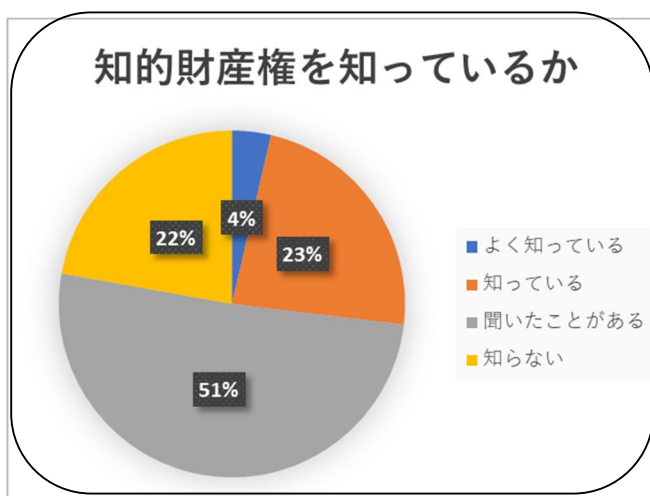




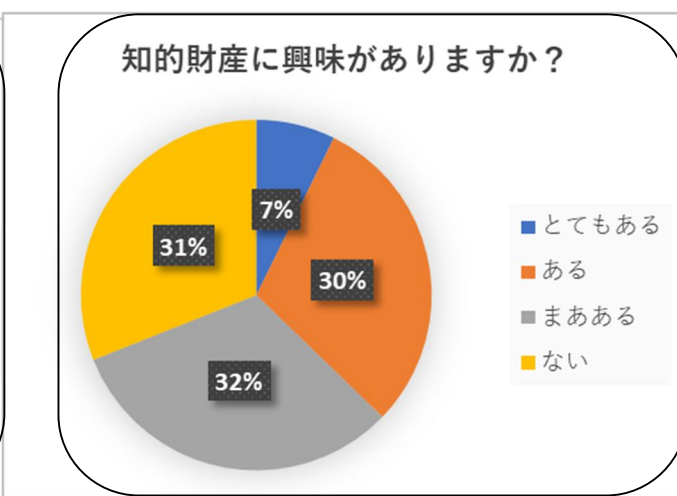
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 外部講師による講話 (写真2) フェルチバックの制作風景 (写真3) 完成したフェルチバック



(グラフ1) 知的財産の認知【274名】



(グラフ2) 知的財産に対する興味【274名】

### (知的財産学習の取組について)

#### 身近にある知的財産権 (講義・演習)

知的財産学習アドバイザーの秋田県立男鹿海洋高等学校、大高英俊先生に来校していただき、知的財産権に関する授業を実施した。

対象クラスは2年生農業科学科66名で、90分の講義と演習を行った。目的は、あらゆる商品や社会とのつながりを理解させ、保護・尊重する意識を養うこととした。大高先生からは身近にある文房具やペットボトル、食品容器について考えさせ、観察力や情報収集力の向上を図っていただいた。





<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財セミナー



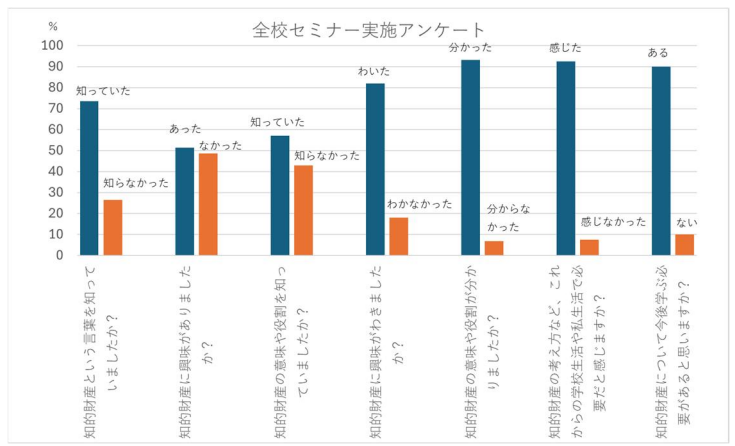
(写真2) 大阪府立農芸高での研修



(写真3) 弁理士による研修



(写真4) 全校セミナー



(グラフ1) 全校セミナー実施前と後の意識調査

全校生徒を対象とした知財セミナーの開催と1年生全学科を対象とした知財セミナー開催の取組

知財セミナーの開催

本年度は事業採択2年目となる。本校は7つの専門科を有しており、1年目の取組では4学科にて知財の取組を行ったことから、本年度は全ての学科にて取組を行うこととし、全校集会を開催して全ての生徒が知財セミナーを受講した。また、昨年度同様に1年生を対象に外部講師による知財セミナーを全学科にて行い、知財学習に必要な「創造」する力を育み、さらなる「知財マインドの醸成」をはかった。

<講師>

- 山口大学研究推進機構知的財産センター 准教授 陳内秀樹 先生  
全校集会 生物工学科担当
- 宮城県工業高等学校 教諭 若松英治 先生  
動物科学科、環境科学科担当  
(本事業の本校アドバイザー)
- 大阪府立農芸高等学校 首席 烏谷直宏 先生  
園芸科学科、森林科学科担当
- 岐阜県立飛騨高山高等学校 教頭 中野輝良 先生  
流通科学科、食品科学科担当



## 令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	農 04	学校名	大阪府立農芸高等学校	担当教員名	岡 康秀
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input checked="" type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	商品のレシピ考案と商品化	ハイテク農芸科生徒・食品加工科製菓食品専攻生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	岐阜農林高校との知的財産学習勉強会	知財開発研究部、岐阜農林高校有志生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,11		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	日々の授業での知的財産学習の必要性	ハイテク農芸科生徒	1,2,3,4,5,6,7,8,10,11,12,13		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知財開発研究部での活動と成果報告カード・チラシの作成	知財開発研究部	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	企業の訪問	知財開発研究部	1,2,3,4,5,6,7,8,11,13		<input checked="" type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥				保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦					<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧					<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					<input type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input checked="" type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	当初予定していた本校の全学科での知的財産学習に取り組むという活動においてハイテク農芸科以外の学科にも普及するという観点において食品加工科にも普及することができた。しかし資源動物科には普及できなかったためこのような見込みとなった。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	今まで知的財産学習に力を入れて取り組んでいなかった学科へも知的財産学習の重要性を普及し、今年度に関しては、新たに 40 人の生徒に知的財産の重要性や日々の実習や課題研究の中で知的財産を意識する習慣が身についた。				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	①・商品のレシピ考案と商品化				
成果内容	本校ハイテク農芸科、食品加工科製菓食品専攻の生徒にて本校の食材を活用した新商品スイーツのレシピ考案と商品化を地元企業の協力の元行なった。その際に、今まであまり知的財産権に触れてこなかった生徒にも知的財産について向き合う時間を作ることができ、学校全体での知的教育の遂行の架け橋となった。				
生徒・学生に見られた変化	生徒に見られた変化としては、特に商標を考える際にその他の商品の侵害になっていないかを意識したり、会話の中で知的財産学習を意識した会話が増えていった。意識について変化のアンケートを数値化できてはいないものの定性的に意識に変化があったことがわかる。				

その根拠	意識について変化のアンケートを数値化できてはいないものの定性的に意識に変化があったことがわかる。
課題・反省点	今後アンケートを取る時間などを設けられていなかったのでもっとしっかりと定量的な数値データをとる。
今後の展望	このまま大阪府立農芸高等学校全体で知的財産教育が定着していけばいいと考えた。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。  
 本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 企業訪問での打ち合わせの様子



(写真2) 試食後のすり合わせの様子



(写真3) 商品化された商品の写真



農業高校での新商品開発と知的財産学習について

**新商品開発に付随する知的財産学習について**

今年度は、ハイテク農芸科だけでなく、食品加工科製菓食品専攻の生徒とともに知的財産学習について力を入れて取り組んだ。その際、製造特許や商標、意匠権について学んだそれ以外にも他の知的財産学習やアイデア創出の手法についても学びながら新商品の開発を行なった。

実際に試作を繰り返し新商品を形にしていった。特にエシカルチーズケーキ専門店 Seed 様や株式会社フランシーズ様の協力を得て商品化するまでに至った。その際に何度か企業を訪問し、経営で大事にしているところ等を伺いアントプレナーシップ教育も同時に行なった。

そして、生徒たちが考案、商品化したものは実際に高島屋泉北店での「おやつマルシェ」にて販売された。その際も現地を視察し、購入されるお客様に対して自分たちが大切にしている部分であったり、製作秘話などを話し、知的財産の大切さを再認識した。



完成した商品のお披露目の様子



<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 外部講師を招いた  
知財セミナー



(写真2) 牛肉の6次産業化  
に向けた検討会



(写真3) 畜産に生きる会議  
での畜産の現状と課題



(写真4) 地理的表示 (GI) 登録  
褐毛和種の価値や知財権活用事例発表



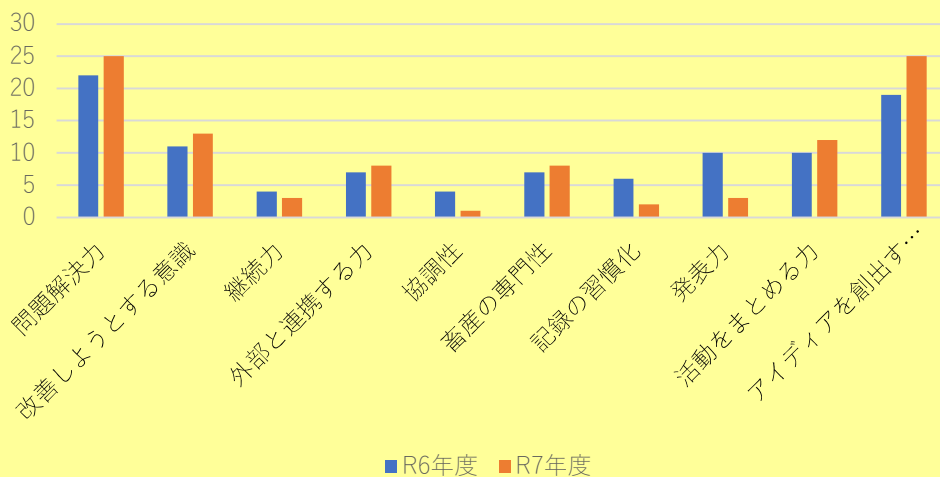
(写真5) 本校産生乳を使った  
6次産業化の検討

令和6年度及び令和7年度における生徒の変容

生徒の意識調査の結果から、知財学習を取り入れた「課題研究」の展開により、問題解決力やアイデア創出力の向上が見られた。

「課題研究」において生徒が身に付いた力 (R6年度,R7年度比)

知財学習を取り入れた課題研究の実践において  
最も身に付いた力とは (1つ選択)





<写真・図表等掲載欄>



写真1 学科間連携による棚製作

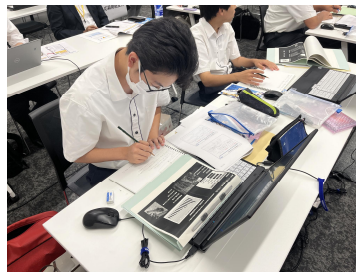


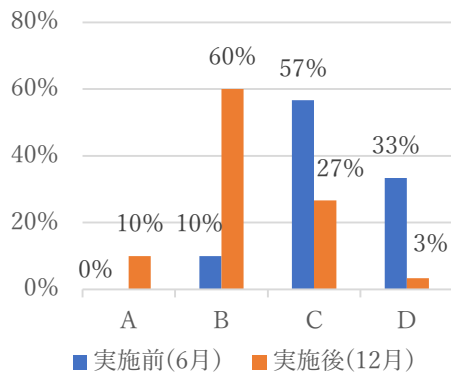
写真2 発明体験ワークショップ



写真3 ブランド化に向けた栽培方法調査

創作活動において知財を意識している

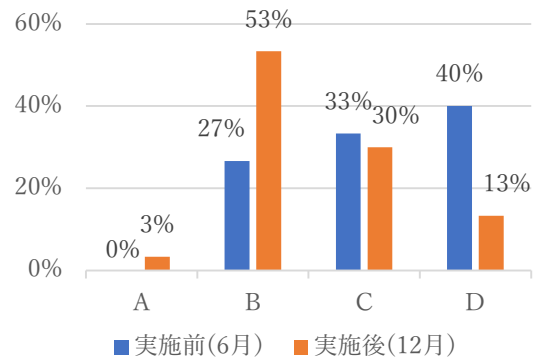
A、常に意識している B、意識している  
C、ほとんどしていない D、全くしていない



グラフ1 創作活動中の意識（実施前後の比較）

知的財産について理解している

A、とてもそう思う B、そう思う  
C、そう思わない D、まったく思わない



グラフ2 知財に関する理解度（実施前後の比較）

ブランディングとラベルによるPR活動

本校で栽培する生製品のブランド化を目的に、ラベル等の商標デザイン作成に取り組み、知的財産に関する理解を深めた。また栽培方法に基づいたネーミングを考える過程で商標権について学習した。

自分のアイデアによって商品の価値が高まることで自己肯定感が

日出の箱入りきのことパッケージ

高まるとともに、品質を維持し、消費者の信頼を裏切っては

ならないという責任感も強まった。アイデアを形にする実践的

活動において商標権等の知的財産の重要性を学ぶことができた。

